



ひいらぎ

垂水市立柘原小学校 学校だより

校訓
キャッチフレーズ

自ら学ぶ子 やさしい子 元気な子
笑顔があふれ 会話の弾む学校

令和6年2月発行

毎日が新鮮で充実した日々を！

校長 竹井 敏秀

立春を過ぎれば暦の上では春。本校の児童は、今日も元気に、巷で噂の大谷グローブでキャッチボールをしたり、新しいサッカーボールを使ってサッカーに興じたりしています。見ていて、心がほっこりします。

さて、先日、職員が「いやあ、一年があっという間でした。」という会話をしていました。おそらく、誕生日や記念日、会社の行事等で保護者・地域の皆様も一度は口にしたことのある会話ではないでしょうか。

年を取るほど時間が早く経つように感じる。言われてみれば、「確かにそうだ。」と感じるこの現象のことを『ジャンネの法則』と言います。

19世紀のフランス哲学者・ポール・ジャンネが発案し、甥のピエール・ジャンネが著書で紹介した法則です。著書の中では、「主観的に記憶される年月の長さは年少者にはより長く、年長者にはより短く評価される」という現象を心理的に解明したと記されています。簡単に言えば、生涯のある時期における時間の心理的長さは年齢の逆数に比例するということです。

ひとつの例ですが、還暦を迎えた60歳の人間にとって、1年の長さは人生の60分の1ほどですが、小学校へ入学したばかりの6歳の児童にとっては、6分の1に相当します。よって、60歳の方にとっての10年間は6歳児童の1年間に相当し、6歳児童の1日は60歳の方にとっての10日に相当することになります。

ただ、この記述に対する信憑性や真偽のほどはおいておくとして、感覚的に「なるほど」と理解していただけだと思います。

ところが現在進行形で考えてみると少し変わってきます。子どもは時として「もっと遊びたい。」と時間の経つのを早く感じることもあり、大人は「何だ、まだこんな時間か。」とやたらと時間が経つのを遅く感じることもあります。

そうです。実はジャンネが唱えた法則は『現在進行形の時間の体感速度』ではなく『過去を振り返ったときに感じる時間の長さの印象』なのです。

何歳になっても毎日が新鮮。毎年、1年を振り返った際、充実感や達成感を実感できる生活を送りたいものです。自戒の念を込めて。

新1年生入学説明会がありました

2月6日(火)に入学説明会を行いました。保護者が説明会を家庭科室で行っている間、新入生は学校探検を現1年生の説明を聞きながら行いました。それぞれの教室で活動の様子を見て小学生気分を味わいました。

現在の入学予定児童は、計6名です。早く会いたいですね！

現1年生も案内、説明をしっかりとがんばりました。頼もしい2年生になりそうです。



【新1年生体験入学の様子】

入賞おめでとうございます！

◆ 南日本作文コンテスト

第3席 中田美那「明日やろうはバカやろう」

寄贈品のお知らせ

1月に2つの寄贈品がありました。1つ目は今報道でもお知らせしている「大谷グローブ」です。右利き用、左利き用、小児用の3つをいただきました。柔らかく使いやすいです。もう一つは明治安田生命の「こどもの健全育成に資する地域・社会貢献活動」という事業からサッカーボールの寄贈でした。サッカーボールもかなり傷んでいたのです子ども達も大喜びでした。昼休みは外で楽しく遊んでいます。



【大谷グローブでキャッチ】



【ナイスシュート】

鬼がやってきました。(節分)

2月3日は節分。今年も上野台地から鬼がやってきました。子どもたちは自分の心の鬼、退治したい目標を言いながら鬼に豆(新聞紙)を投げ、鬼退治をすることができました。鬼はすべての学級をまわり全児童とふれあうことができました。また来年小学校へ顔を出してくれると思います。子どもたちはそれまでに決めた心の鬼退治を達成してくれると思います。



【鬼と記念写真】

予告なしの避難訓練でした！

8日(水)の朝の活動の時間に、予告なしで地震の避難訓練を行いました。普段から、自分の命を自分で守ることができるかを見届け、いつでも対応できる子どもを育てるための取組です。今年は能登で大地震があり、たくさんの方の尊い命が奪われました。校長先生の話であった「命の大切さ」をしっかりと意識し、もしものときに備えたいものです。



【机の下にかくれます】

3月の主な行事

日	曜	行事等
7	木	P T A 理事・評議員会
8	金	学校運営協議会
9	土	(～4月6日) 体育館施設開放中止
12	火	垂水中央中卒業式
13	水	卒業証書授与式予行練習
22	木	令和5年度卒業証書授与式
25	月	修了式、離任式、大掃除
26	火	P T A 送別会 (予定)

※ 離任式は、修了式終了後に行います。